
お鬱に帰ろう

藤井秀央

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お鬱に帰ろう

【Nコード】

N6937E

【作者名】

藤井秀央

【あらすじ】

フリーターの先は、ニート。ニートの先は……。

僕は、今日も仕事を終えた。仕事といっても、ただただ、家に居たばかりである。そう、僕の仕事は人間。人間として、ここに存在することが仕事なのだ。別に、お金を稼ぐ必要も無い。存在が仕事なのだから。

一日の仕事が終われば、それから、ただ鬱になるだけである。皆さんは、仕事を終えて、重い足を地面に引きずり、お家に帰るだろう。でも、僕の場合は、お家には帰らない。お鬱に帰るのだ。

ここで一つおかしな所が出てくる。存在が仕事ならば、24時間、無休で働き続けることになる。そうなれば、僕はお鬱に帰ることは無いはずだ。

でも、僕はしっかりお鬱に帰っている。それどころか、お鬱に帰ったまま、仕事もせずにいる。

なぜなら、最近では仕事をする必要が失くなったのだ。昔は、存在を周りに示しておく必要があった。しかし、それだけでは、当然ながら、周りも、存在だけの僕に慣れ、存在だけなのだから、いる意義も薄れていく。そうなれば、意義の薄れと共に、僕の話は、相手にしなくなる。相手にされなければ、僕が存在する必要は失くなる。

そして、僕は、お鬱から出なくなった。

お鬱に引きこもったのだ。

僕は、この世に要らない人間……いや、もう人間という仕事は辞めたのだ。ニートなる人間ではなくなった。ニートという職業から、BOMに転職した。

ただ、お鬱にいるだけの。

昔は、フリーターは職業では無かった。でも今では、立派な、一つの職業だ。

今は、ニートは職業では無い。でもいつか、職業になるだろう。未来では、BOMは職業では無いだろう。でも、さらに未来には、職業になるはずだ。

僕は、その未来に生まれるべきだったのだろうか。

（後書き）

BOMという名称は、ブロック オブ メランコリー、つまり、鬱
の塊という意味ですが、そこには、何の意味もありません。英語と
して正しいのかも分かりません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6937e/>

お鬱に帰ろう

2010年10月11日15時41分発行